

山麓をわたる風 No. 2

平成 30 年 9 月 19 日発行

〔寄稿〕 昨今の縄文検定

尖石縄文考古館 小池岳史

縄文を意識した人づくり「市民総学芸員化」を図ることを目的に、茅野市尖石縄文検定を開始して今年で9年目となる。小中学校では平成26年の縄文科の創設を機に、主に青少年自然の森のキャンプの中で取り組んでいただいている。

筆記試験の前に、縄文時代の基礎的な知識、縄文人の衣食住やマツリについて、展示物を見ながら学芸員が解説するが、今から4000年、5000年も前の日常生活と直結する話でないために、イメージがわからない児童生徒が少なくないようである。

國學院大學名誉教授の小林達雄氏は、縄文時代の道具を「第一の道具」、「第二の道具」と呼び分けた。前者は縄文人が生命を維持するために、動物をとり、煮炊きに使う、石鎌（矢じり）や土器等の「腹を満たす」ための道具であり、後者は縄文人の精神世界に関わる土偶や石棒に代表される「心を満たす」ための道具である。

こうした概念を援用し、子どもたちの日常生活と関連付けた解説をおこなうようになってから、明らかに子どもたちの反応が良くなった。

鍋である土器の発明によって、旧石器時代まで焼く、蒸す、生で食べていた肉を、「シャブシャブ」で食べられるようになり、強い渋みをもち今まで食べることができなかったドングリが食料に加わった。



食べ物の種類が増え、おいしく衛生的に食べることができ、縄文人の腹を満たした結果、人口が増えて遺跡がたくさん残された。もしも、縄文人が土器を発明していなければ、キャンプの夕食でカレーを作ることができなかったかもしれない。

「縄文のビーナス」や「仮面の女神」を作っても腹は満たせない。かえって腹が減る。けれど、新たな生命を産む力をもつ女性をモデルにお腹を強調した人形を作り、安産や子孫の繁栄を願い、生活に必要な衣食住を与えてくれる「母なる大地」の豊かさを祈ることで、縄文人は心を満たしていたのではないか。皆さんは、勉強、スポーツ、習い事で心を満たし、しっかり食べて腹を満たしている。心と体のバランスを上手にとって、いつでも元気でいてほしい。

これからも多感で柔軟な思考をもち、吸収能力の高い子どもたちに、縄文検定を通じ縄文の価値、魅力、素晴らしさを自分なりに伝えていきたいと思う。



縄文と今を Art でつなぐ

～茅野市中央公民館と学校との連携事業から～

☆テーマ「縄文国の国旗をつくろう」

・茅野市中央公民館、尖石縄文考古館、康耀堂美術館・京都造形芸術大学との共催により、小中学生16名と保護者、教職員のみなさんが参加して7月28日(土)「縄文アート」の講座が行われました。

◇康耀堂美術館学芸員 梅木友香先生に作品鑑賞のツボを教わりました。

～美術館(尖石縄文)考古館で展示品をより深くみるために

第1問 「鑑賞」なのか「観賞」なのか

・次のうち正しい漢字の使い方のものはどれでしょう。

- ① 名月を鑑賞する。 ② 映画観賞会に行く。
③ 彼の趣味は音楽鑑賞だ。 ④ 展覧会の観賞ツアー

○観賞・・・自然の風景や動植物を見てその美しさを楽しむこと。

○鑑賞・・・芸術作品を見たり聞いたりしてそのよさを味わうこと。

*だから正解は・・・①× ②× ③○ ④× です。

第2問「みなさんは美術館の作品を何秒くらい鑑賞していますか」

・・・平均は、たった10秒くらいです。

*絵かきさんは～ 10号(長辺53cm)の絵画で1ヶ月くらい、
大きな作品になると1年かかることもあるのに・・・

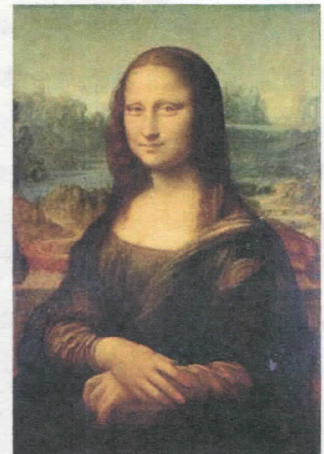
☆では、作品をどれくらいしっかり見ているか試してみましょう
モナリザの絵をよ～く見てください。(1分後)・・・では、問題です。
組んでいる手はどちらが上だったでしょう？

「えっ!・・・う～ん、見ているようで案外しっかりと見ていない」

・時間をかけてじっくりと見るためのよい方法があります。

*対話的鑑賞法 →みんなで見たり話したりすると、たくさんのご
とに気づくことができます。作品鑑賞するときの4つのコツは・・・

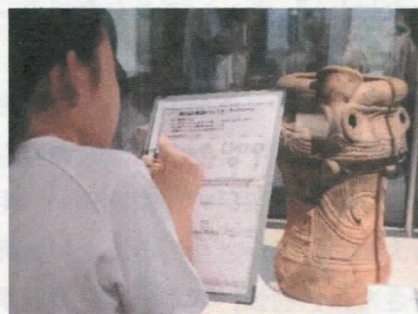
- ①みる ②考える ③話す ④聞く ことです。



◇本物の縄文土器にさわってみました。そして、考古館内で気に入った土器文様を探しました。



気に入った土器デザインを探そう!
「この渦まき文様が面白いな」



見つけたことを聞き合う
「なるほど、確かに面白い!」

「意外と手にしっくりくる」

<守矢昌文館長さんが優しくていねいに教えてくださいました>

◇河野 愛先生（京都造形芸術大専任講師）に教わって、楽しく縄文国の国旗をデザインしました。



◇子どもたちの感想から・・・

・いつもは土器の文様までちゃんと見ていませんでした。ちゃんと見たら、いろいろな文様があり、一つ一つがちがっていてすごかった。縄文人には、いろいろなアイデアがあるんだなあと思いました。守矢館長さんが説明してくれたので、縄文のことをいろいろ知ることができました。また、旗づくりでは、緑色がつくれ、模様もいろいろ工夫してできて良かったです。

☆2学期の縄文科学習予定と行事（授業公開、作品発表、学習発表会、カルタ大会等・・・）

1 「縄文アート」市民館

- ・各小中学校の縄文科作品から ～土器、土偶を中心に
- ・展示期間 10月6日（土）～10月21日（日）

2 縄文科学習授業公開

◇縄文科授業参観（永明中）10/31（水）

◇縄文科授業参観（玉川小）11/5（月）

- ・実際の縄文科の授業場面から、子どもたちの学習する姿に学ぶ。
- ・縄文（市民）科の学習展開のようす を参観します。



3 縄文科学習ロビー展

*会場：より多くの方々に見ていただきたく、市民館1階ロビーで計画しています。

*展示期間 12/17（月）～12/25（火）8日間 *18日（火）休館日

4 茅野市縄文科学習合同発表会 12/22（土）

- ・各小中学校代表児童が縄文科学習の発表（1校10分程度）をして一年間の学習のまとめを行います。

*期日：12月22日（土） 午前9：00～12：00

*会場：市役所8階大ホール

5 茅野市縄文かるた大会

- ・縄文プロジェクト「識る」部会・考古館主催のかるた大会が行われます。子どもたちへ参加をすすめてください。

・開催日時 平成30年10月14日（日） 9：00～15：30

・会場：青少年自然の森研修等

・会場 青少年自然の森研修棟

- ・参加者 保育・幼稚園児、小学校低・高学年、中学生



◆縄文耳（ミミ）より情報

◇猛暑には噴水の水が恋しい！（市役所本庁前）

～実は下ノ原遺跡〔玉川荒神〕出土の縄文土器がモデル

▽遺跡名 しものほらいせき 下ノ原遺跡

〔運動公園野球場・駐車場付近〕

この夏の猛暑は記録的でしたが、水辺に寄って水音を聞き水の流れるのを見ると、ちょっぴり暑さが和らぐように感じました。市役所の正面玄関前の噴水にも涼を求めて立ち寄る市民のみなさんや子どもたちの姿がありました。



この噴水は、とてもスマートな形をしており、優雅ささえも感じますが、実は市内で発掘された縄文土器がモデルです。この土器は「下ノ原遺跡」からみつかりました。運動公園野球場の駐車場のあたりです。

運動公園の野球場建設工事にともない昭和49年から発掘調査が行われました。その結果大規模な集落址が発見され、貴重な遺物や建物跡が多数出土しました。縄文時代前期から後期までの竪穴住居の跡が合わせて31軒。そして市内ではじめて、6個の穴がきちんと長方形にならんだ方形柱穴列が発見されました。どのようなことに使われていたのでしょうか。

①倉庫の柱の穴？ ②物見やぐら？

③イノシシなどの獣の檻？

など、いろいろな説があります。有名な青森県の三内丸山遺跡でも6個の大規模な方形柱穴列が発見されましたが、物見やぐらのように復元されています。大切な遺構であることから、埋めもどされて今でも大切に保存されています。

その他に、縄文前期～後期の豪華な文様の土器や石器が多数出土し、長方形にならんだ6つの穴ゆたかなムラの存在が確認されています。



2020年開催に向けて準備が進んでいる東京オリンピックの聖火台に国宝に指定されている新潟県十日町市の火焰型土器を採用してほしいと、地元十日町市で熱い運動になっているそうです。しかし、私たちの茅野市出土のこの土器も「なかなかいいんじゃない！」という思いがします。

*茅野市の国宝「縄文のビーナス」「仮面の女神」をオリンピックのメダルに採用したらという運動も新たに起こってきているそうです。



〔参考文献・写真「茅野市 縄文ガイドブック」より〕

国宝 火焰型土器

